

雑司が谷旧宣教師館だより

第25号
2002年8月31日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎/FAX(03)3985-4081

近代建築の 動態保存

東京・表参道の同潤会青山アパートが、再開発のために現状での保存が困難になったというニュース、ご記憶の方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。ケヤキ並木と一体となって続く美しい街並みは、都市景観を代表するもののひとつでもあります。ただ、景観のみを重視することは問題であり、内部の住宅機能の老朽化という住民にとって深刻な現実があります。現在アパートの建て替え計画は建築家・安藤忠雄らが中心となり、住居と商業施設からなる都市複合施設として甦るといわれています。

東京駅は創建時に復元

今から15年前、東京駅高層化が検討された時「赤レンガの東京駅を愛する市民の会」が結成され、保存運動が展開されました。この運動には、駅舎屋根のスレートを産する南三陸・雄勝町の町ぐるみの協力や、復元のアイディアコンクールの全国規模での開催など、旧国鉄マンや建築専門家らの惜しみない応援があったということです。

1999年秋、東京都知事とJR東日本社長の合意により、東京駅は大正3(1914)年の創建時の3階建て(*1)の姿に復元・保存されることが決定し、2006年に工事が始まり2010年に完成予定です。(*2)

日本人は建て替えがお好き？

いちょうろんどん

明治末に「一丁倫敦」(*3)と呼ばれた赤レンガ街が、東京・丸の内に建設されます。大正に入ると合理性・経済性を重視したアメリカ式コンクリート工法に変わり、そこが今度は「一丁紐育(いちょうじゆ-よ-く)」と称されます。第二次大戦後、1960年代の高度成長期になるとそれら



(雑司が谷旧宣教師館ポストカードより)

の建物は機能主義のビルに順次建て替わられていきます。

お寺や神社は、文化財として認識を持たれますが、ふだん使っている建物＝商業用や生活する建物には公共の財産としての認識が持たれにくく、歴史遺産という見方も希薄のようです。

「スクラップ・アンド・ビルド」、つまり建て壊す建築文化の中では、老朽化が進んだ建物は取壊されていきます。近代の名建築が次々と建て替えられるなか、日本建築学会は1980年に『日本近代建築総覧—各地に遺る明治大正昭和の建物—』(*4)を公刊し、後世に残したい建築・2800件をリストアップしますが、今残っているのは半数といえます。(本館は旧マッケレーベ邸として掲載)

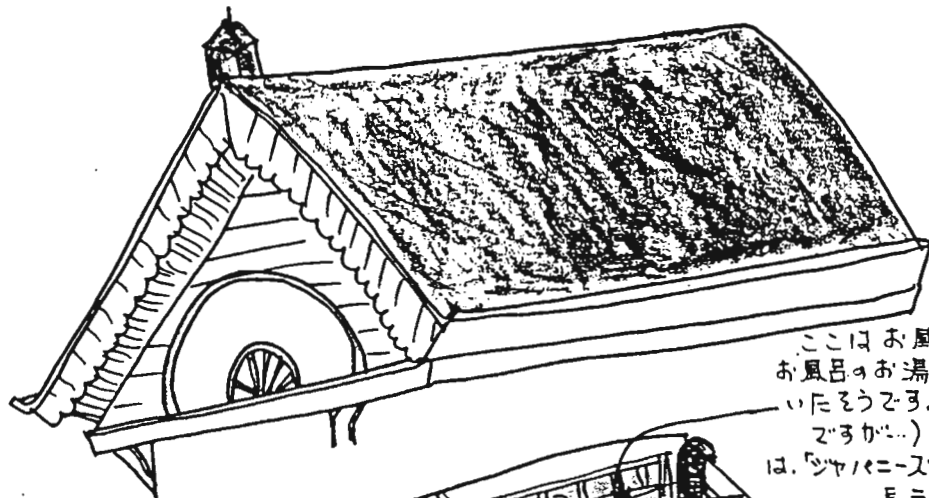
文化財登録制度の導入

旧マッケレーベ邸は昭和57年、住民保存運動により豊島区が購入し、文化財に指定・保存しました。同様に、歴史的町並みや建造物の保存活用を通じて、地域の固有文化を守り育てる動きは全国的に広がりつつあります。(*5)文化財保護法改正(平成8年)の結果、「文化財登録制度」(*6)が導入され、建造物の保存・活用へ道が開かれつつあります。(4ページへ)

建物今昔

雑司が谷旧宣教師館展示内容
調査実施委員会 1986年実施

当時の雑司が谷旧宣教師館



ここはお風呂場です！何と、お風呂のお湯はガスで沸かしていたそうぞ。 (初期の頃は「？」ですか...) パスタに関して、'ジャパニーズスタイル'の木製の長方形の「外判型」という異なる情報がある。

時代とともに変わったのかも知れません。

客間兼寝室。来日した多数の宣教師がここから全国へ散っていきました。

マッケー-シニア書斎です。マッケー-シニアは暖炉を背にしてここでタイプライターを打っていたそうぞ。黒い木製の万年筆を使用していた。

ここに地下室への入り口があるんです!! 台所でつくった缶詰やぶどうジュースなどを入れておいた。マッケー-シニア留守中、これら飲んでしまつた人もいたと...

2F

マッケー-シニア寝室。詳しいことは不明なぞぞ。

この部屋は台所でした!

ここにはガスレンジがありました。質素な宣教師館においては、皆々目には異様に立派にうつったようぞ。

「まるでヒア)か何かのちよ)のちよ)みたいな感じ」「三越のなかに行つても見たことのないような(立派なもの)」と表現する人もいた。畑でとれた小麦でパンを焼いた。

1F

黒い箱型のアッフライトのヒア)。宗教的にことには使われなかった。時々日曜学校の生徒が来て練習していたこともある。

この部屋は居間です!!

教会事務所。この部屋で教会

伝道誌「道しるべ」をつくっていた。(S.3~16)「道しるべ」をつくる時は、まん中にテーブル置いて、皆々ワイワイと意見を出し合った。秘書のローレン・ハセカワさんは昭和15年まで2年半、この部屋に住んでいた。その前にはヤギを飼つた夫婦がいて、近くの子供に5口、よくこっやぎをのそぎに来てたという。

ここは食堂でした! ホッケー-ツルには、ぶちにレ-スアツいた日、テーブルが壊れてかかかっている。マッケー-シニアは、自分で作った野菜を生で食べて、よくお腹をこわしたそうぞ。

七 磁 石 下 村 倉 庫
宣 教師 館
2
モ 模 小 社 に 昔 今

蘇えった雑司が谷旧宣教師館

『ひろば』第47号

— としまの社会教育 —
に掲載. 昭和63年12月27日発行
豊島区教育委員会社会教育課編集

切妻屋根には破風板(Verge Board)があり、下の部分には曲線で装飾されています。

半円の屋根窓

屋根の形は寄棟造りで、北東西の部分が切妻になっています。

宣教師館のある雑司が谷のコーナーです。雑司が谷には多くの文化人が住んでいました。イラストマップを見てください!! 模型もいろいろ、小学生の皆さん、社会科の勉強に役立ててください。

昔の雑司が谷のことがわかりました!! 現存の宣教師館は全国で31あります。重要文化財に指定されている弘前学院宣教師館の模型もあります。

1F
玄関はココ



ここは情報検索コーナーです。展示を見て、「もっと詳しく知りたい!」「?」と思ったらココへ!!

ここは雑司が谷に約40年住み、町会長もつとめた作家、秋田雨雀のコーナーです! 作家としてだけでなく、いろいろ分野で活躍した「マルチ人間」雨雀に関する品々を展示。雨雀や新学校、児童文学のビデオも見られますよ。

アール・ヌーヴォー風のタイルがはめ込まれた暖炉。タイルは今も色鮮やかで美しい!!

この部屋は昔の食堂部分を復元。マッカーレフの生活はホントに質素だったそうです。食べ物もほとんど自給自足でした。

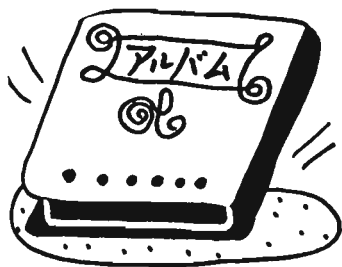
ここは児童図書コーナーです!! 『赤い鳥』、『金の星』、『童話の複製』etc...昔読んだ人は懐しく、若い人もそれなりに楽しめます! とにかく表紙がステキなので、(中身も読んでね)

ここはマッカーレフに関するコーナーです。マッカーレフの年表とビデオを見たら、おぼたはもう「マッカーレフ通」。当時の人々とマッカーレフの写真を、いろいろと思いめぐらせてください。関連資料の展示も。

建築として「宣教師館」

動態保存のはじまり

文化財保存のあり方の方法として建物を元々の場所で使いながら残す、「動態保存」の試みが始まりました。先駆けとなったのが、明日館（西池袋2-31-3）です。1988年、自由学園明日館の保存を考える会が発足、ライトの設計した美しい校舎は卒業生らの粘り強い運動が結実し1997年、重要文化財に指定されます。これを受けて明日館は、使いながら文化財的価値を保存する「動態保存」を志向し、オリジナルの姿に戻す修復工事を実施、2001年「社会に働きかける活動の場」としてオープンしました。（*7）



禅文化歴史博物館の開館

今年、駒沢大学の旧図書館であった耕雲館が昭和初期の完成当初の姿に復元され、「禅文化歴史博物館」として6月一般公開されました。

耕雲館は旧新橋演舞場などを手がけた建築家菅原栄蔵の設計で、1928年に完成。幾何学的な側壁にはライトの影響がうかがわれ、1999年に東京都歴史的建造物指定。10月1日からは開校120周年特別展示が開催されます。（*8）

建物はメッセージ！

日本各地に華麗で美しく、しかも繊細な意匠を施した洋館が数多く残され、公開されているものもたくさんあります。豪華なものであれ、たとえ質素でもそれらの近代建築は、維新後の西洋化の中で当時の職人たちが、メートルを尺に換算しながら職人芸と心意気をかけて作りあげていったものです。

アメリカの信者たちの献金を集めて建てられたマッカーレブのこの家も、藤崎某という大工棟梁の職人技が随所に見つかります。

都市の限りある土地の中では、歴史より採算性が重視され、住人にとっても利便性が優先されます。しかも建物の修復保存は新築よりも膨大な費用を要します。幾多の条件を乗り越えて保存された建物には、様々なメッセージが込められていることでしょう。皆さんひとりひとりが感じられたもの、ぜひお聞かせください。

（*1）辰野金吾の設計で3階には南北にドームがあった。1945年5月25日の空襲により焼失。終戦直後に2階建てに修復

（*2）朝日新聞2002年7月3日夕刊

（*3）明治27年から明治末期にかけて、馬場通りに建設された装飾性を重んじたヨーロッパ式レンガ工法の赤レンガ街

（*4）日本建築学会編、技報堂出版（株）

（*5）全国町並み保存連盟主催「全国町並みゼミ」今年第25回目開催

（*6）これまでの国宝や重要文化財が「指定」されるものであるのに対して、幅広く文化財を「登録」して、その保存を国が助言、

勧告する⇒固定資産税や地価税の軽減措置
（*7）明日館は重要文化財の講堂や教室を、会館施設・学習施設としてコンサート・結婚式・公開講座等に活用 ☎03(3971)7535

（*8）開校120周年記念特別展示「駒沢大学の歴史」10月1日（火）～11月29日（金），入館無料，月～金 10:00～16:30（金は19:00まで）大学の休日は除く，世田谷区駒沢1-23-1，☎03(3418)9610

秋の開催事業のお知らせ

□地域史講座「雑司ヶ谷学事始め」
*テ-マ：昭和の雑司ヶ谷 ①子どもの目に映った雑司ヶ谷 ②戦火の中の雑司ヶ谷
日時：10月5日，12日（土）13:30～15:30
講師：小森香子さん（日本子どもを守る会副会長・詩人）無料 申込・詳細は本館まで

□「戦地から雑司が谷へ 絵てがみ 200通—画家を志した岡野誠の遺作展—」日時：10月12日～11月24日（日）9時～4時30分，本館内にて無料◆ギャラリートーク：10月19日（土）2時～3時30分，話：矢島勝昭さん（地域研究家）「ユーモアと哀感の絵てがみ」（参加自由）

□雑司が谷村お宝さがしウォーク（参加無料）開催：11月6（水）、7（木）、8（金）、9（土）、10（日）豊島区立郷土資料館でマップをもらい、西池袋⇒東池袋⇒雑司が谷地域のポイントをまわりクイズを解答⇒本館（ゴール）で参加賞を

【編集後記】雑司が谷旧宣教師館は建物公開が主で、動態活用を目的とした修理工事は行っていません。訪れる方が「来て良かった」と思えるよう佇まいを維持して参ります。（文責浜地）